

1. 彼岸出し作型における小ギク品種の電照による開花抑制効果			
[要約]			
<p>彼岸出し作型においては、美風、みのるなど14品種が電照による開花抑制効果が高い。また、美風、みのるなど7品種が電照による発蕾抑制効果が高く、特につばさ、わかさ及びきらりの3品種は電照による発蕾抑制によって、彼岸直前に開花させやすい。</p>			
研究室名	野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0271（内線235）

## [背景・ねらい]

夏秋ギクに対する電照の開花抑制効果は、品種によって異なるといわれている。このため、夏秋小ギク品種に対する電照の効果を彼岸出し作型において検討する。

## [成果の内容・特徴]

- 11月まで電照を継続した場合、美風、みのる、ほたる、のぞみ、風鈴、彦丸、糸子、玉子、くれない、花エクボ、青春、つばさ、わかさ及びきらりの14品種は開花日が著しく遅れ、電照による開花抑制効果が高いと考えられた（表1）。
- 美風、みのる、ほたる、のぞみ、つばさ、わかさ及びきらりの7品種は、電照によって発蕾日が著しく遅れ、電照による発蕾抑制効果が高いと考えられた。特に、つばさ、わかさ及びきらりの3品種は、無電照区の開花日が8月末～9月上旬であるため、電照で発蕾を15日程度抑制するだけで彼岸直前に開花させることが可能と考えられた（表2）。

以上の結果、彼岸出し作型においては、美風、みのるなど14品種が電照による開花抑制効果が高い。また、美風、みのるなど7品種が電照による発蕾抑制効果が高く、特につばさ、わかさ及びきらりの3品種は電照による発蕾抑制によって、彼岸直前に開花させやすい。

## [成果の活用面・留意点]

- 本試験は、深夜4時間の電照を11月まで継続した条件下で行われたものである。また、夏秋小ギクの開花日は地域によってかなり異なる。今後、実証試験が必要と考える。
- 切り花品質、奇形花の発生については、品種間差があるので、今後実証試験での検討が必要である。

[具体的データ]

表1 電照・彼岸出し作型に利用できる22品種の電照による開花抑制効果

電照区 平均開花日 (月/日)	無処理区 の平均開花日(月/日)					
	~8/5	8/6~8/10	8/11~8/15	8/16~8/20	8/21~8/25	8/26~
9/11~9/20	初穂					
9/21~9/30	赤魚、 ささやき	山水	菊丸			
10/1~10/10	翁丸		うたげ			
10/11~10/20						
10/21~10/31	のんこ					
11月5日まで 未開花茎があ った品種	美風、 みのもる、 ほたる	のぞみ、 みのもる	風鈴、彦丸、 糸子	玉子	くれない、 花エクボ	青春、 つばさ、 わかさ、 きらり

注) 電照は、定植時から11月5日まで、深夜4時間の暗期中断で行った。

下線を引いた品種は平成12年度供試品種、その他は平成11年度供試品種。

表2 電照・彼岸出し作型に利用できる22品種の電照による発蕾抑制効果

電照による 発蕾遅延日数 (日)	無処理区 の平均切り花日(月/日)					
	~8/5	8/6~8/10	8/11~8/15	8/16~8/20	8/21~8/25	8/26~
~10	菊丸					
10~15	糸子					
16~20	初穂					
21~25	山水	風鈴、 うたげ、 のんこ		玉子		
26~30	赤魚、ささや き	翁丸	花エクボ			青春
31~35	彦丸					
36~	美風、 みのもる、 ほたる	のぞみ、 みのもる	くれない			つばさ、 わかさ、 きらり

注) 電照は、定植時から11月5日まで、深夜4時間の暗期中断で行った。

下線を引いた品種は平成12年度供試品種、その他は平成11年度供試品種。

[その他]

試験研究課題・事業名：盆・彼岸ピッタリ出荷による高付加価値小ギク生産のための精密開花調節法の確立

予算区分：県単

研究期間：平成13年度

関連情報等：平成10年度試験研究主要成果：夏秋小ギク主要品種の開花特性

平成11年度試験研究主要成果：電照・盆出し作型に利用できる小ギク品種